

## 麻疹（はしか）患者の発生について

7月22日、筑西市内の医療機関（病院）から筑西保健所へ麻疹患者の届出（臨床診断）があり、県衛生研究所で検査を実施したところ、麻疹陽性と確定しました。

筑西保健所では、患者に対する疫学調査及び接触者の健康調査を行うなど、感染拡大防止の対応に努めております。

なお、当該患者は、現在、自宅療養中で快方にむかっております。

1 患者の概要：25歳（男性）、筑西市在住（ウクライナ国籍）

麻疹予防接種歴不明

2 症 状：発熱，発疹，咳等

3 経 過 等：

7月11日 ウクライナから入国。

7月15日 37.5度以上の発熱。

7月20日 発疹が出現。

7月22日 38～40度の発熱及び発疹のため、筑西市内の病院を受診。

同病院から筑西保健所へ麻疹の発生届（臨床診断）。

県衛生研究所の遺伝子検査で麻疹陽性と判明。

※ 当該患者の行動歴を調査した結果、不特定多数の人が利用し、接触者を特定できない施設の利用が、ないことを確認しています。

※ 本事例に関わる当該患者の職場や受診医療機関における接触者については、筑西保健所及び医療機関において、対象者の健康観察を実施しています。

患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

【茨城県感染症情報センターホームページURL】

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

○ 麻しん（はしか）とは

原 因：麻しんウイルス

潜伏期間：約 10～12 日間(最大 21 日間)

症 状：感染すると、約 10 日後に 38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。

治 療：特異的な治療はなく、対症療法

感染経路：空気感染、飛沫感染、接触感染で感染力は非常に強いと言われている。

感染症法：五類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出ることになっている）

予防方法：ワクチン接種

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 麻しんは、有効な治療方法がなく、予防する唯一の手段はワクチン接種です。

麻しんの定期予防接種（第 1 期：1 歳児、第 2 期：小学校就学前の 1 年間）をまだ受けていないお子さんは、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

また、麻しんを発症すると、多数の者に感染を引き起こしてしまう可能性が高い、医療関係者、児童福祉施設等の職員、学校等の職員等で、麻しんに未罹患であり、かつ、麻しんの予防接種を 2 回接種していない方は、予防接種を受けましょう。

2 症状から麻しんが疑われる場合、必ず事前に保健所に連絡のうえ、保健所の指示に従って医療機関を受診してください。受診の際は、周囲の方へ感染させないよう公共交通機関等の利用を避けてください。

また、麻しんにかかった（検査で診断された）ことがない方が海外渡航する時には、渡航先の流行状況を確認するとともに、麻しんの予防接種歴を確認し、2 回接種していない場合、又は接種既往が不明の場合には予防接種を受けることをおすすめします。

○ 医療機関の皆様へ

発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認等、麻しんの発生を意識した診療を行うとともに、臨床症状等から麻しんと診断した場合には、速やかに保健所に届出をお願いします。

また、患者（疑い含む）は個室管理を行う等、麻しんの感染力の強さを踏まえた院内感染対策の実施についても併せてお願いいたします。

【参考】

麻しん患者発生状況（全国値：2019. 7. 17 現在）

単位：人

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
全 国	283	229	462	35	165	189	282	659
茨城県	0	0	3	0	1	1	3	17※

※2019 年には今回の事例を含む。